

学部学科適性試験

実施学部	総合人間科学部
実施学科	教育学科・社会学科・看護学科
試験時間	75分
試験概要	【学科共通試験】 人間と社会に関わる事象に関する論理的思考力、 表現力を問う総合問題

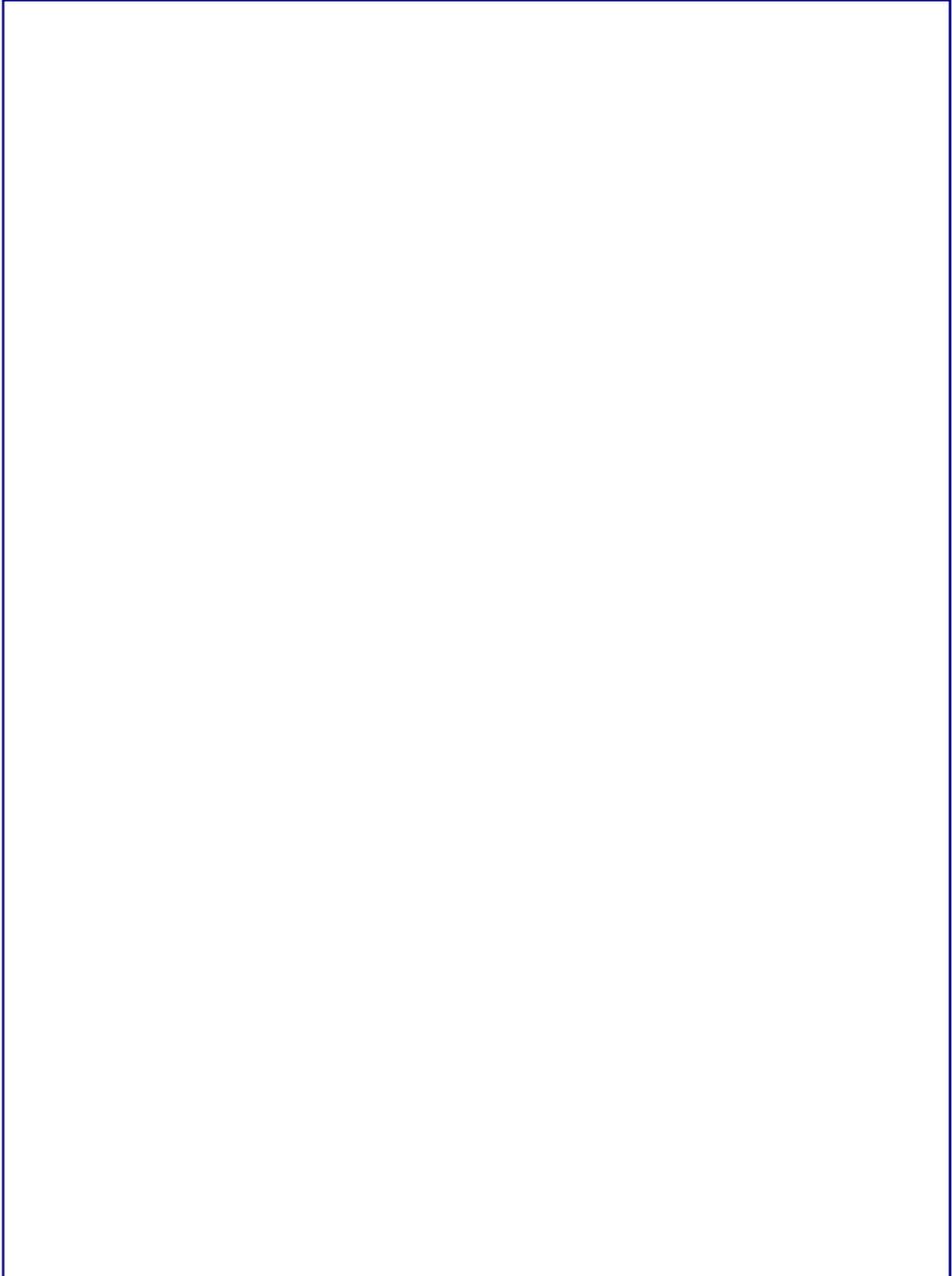
(この問題冊子は15ページ、2問である。)

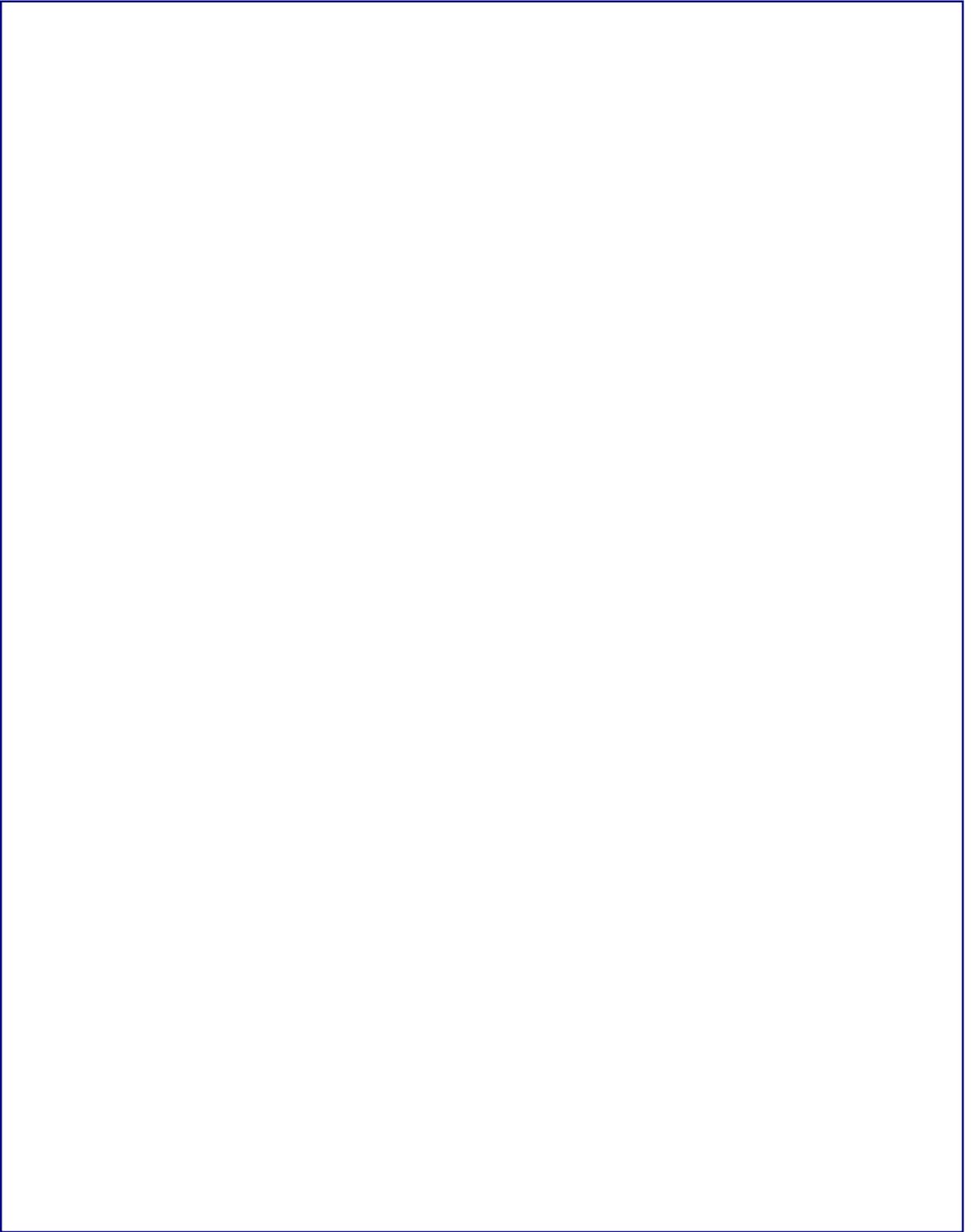
受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙1ページ目の左上に氏名と受験番号を記入し、所定のマーク欄をぬりつぶすこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。
5. マーク式の解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 記述式の解答は、各解答欄にていねいに記入すること。数字、ローマ字については、1マスに1字とする。
8. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消したうえで、消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
10. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

I 次の[文章Ⅰ]と[文章Ⅱ]は、現代社会における人々のつながりについて考察したものである。これを読んで、後の設問に答えなさい。

[文章Ⅰ]

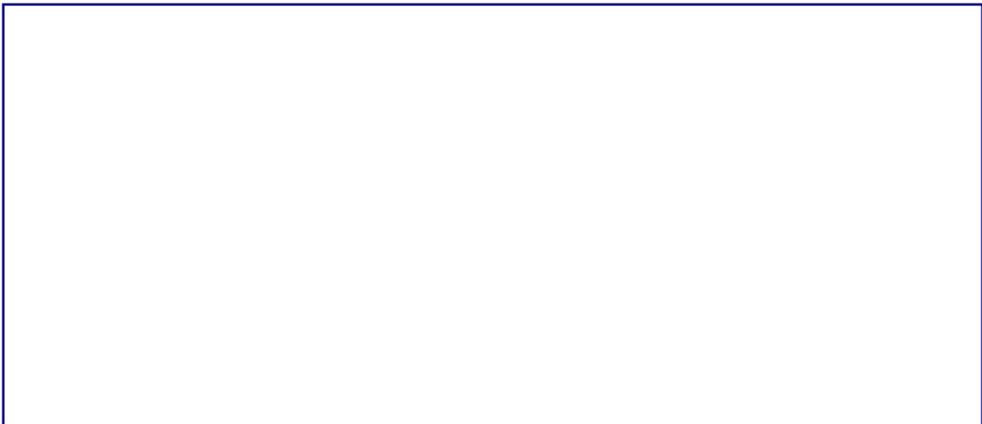






(出典：広井良典『持続可能な医療—超高齢化時代の科学・公共性・死生観』ちくま新書, 2018年による。一部改変)

[文章Ⅱ]







(出典：町村敬志「地域社会のゆくえ」友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』丸善出版，2021年による。一部改変)

[注(※)]



設 問

- (1) 下線部1から3のカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。
- (2) 下線部Aに関し，日本の国勢調査に関する次のX・Yの説明について，その正誤の組合せとして適切なものを，下記の①～④より1つ選びなさい。
- X：国勢調査では世帯の人数や続き柄だけでなく，就業状態や住宅の種類も尋ねられている。
- Y：現在，国勢調査は西暦年の下1桁が0か5の年に行われているが，新型コロナウイルスの感染予防のため，2020年の国勢調査は実施されなかった。
- ① X = 正 Y = 正 ② X = 正 Y = 誤
③ X = 誤 Y = 正 ④ X = 誤 Y = 誤
- (3) 下線部Bについて，とはどういう意味であると考えられるか，説明しなさい(句読点とも50字以内。なお，孤立，孤独の記載に“ ”をつける必要はない)。

(4) 空欄 ア と空欄 イ に[文章Ⅰ]の著者が記している言葉を前後から論理的に推測して、[文章Ⅰ]内の言葉から各々記しなさい。

(5) 下線部Cについて、どのような格差があったと考えられるか、一例をあげなさい(句読点とも25字以内)。

(6) [文章Ⅱ]に関する次のX・Y・Zの文について、[文章Ⅱ]の著者が主張していることの正誤の組合せとして適切なものを、下記の①～⑧より1つ選びなさい。

X :

Y :

Z :

- | | | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|---|-------|-------|-------|
| ① | X = 正 | Y = 正 | Z = 正 | ② | X = 正 | Y = 誤 | Z = 正 |
| ③ | X = 正 | Y = 正 | Z = 誤 | ④ | X = 正 | Y = 誤 | Z = 誤 |
| ⑤ | X = 誤 | Y = 正 | Z = 正 | ⑥ | X = 誤 | Y = 誤 | Z = 正 |
| ⑦ | X = 誤 | Y = 正 | Z = 誤 | ⑧ | X = 誤 | Y = 誤 | Z = 誤 |

- (7) [文章Ⅰ]と[文章Ⅱ]に関する次のX・Yの文について、双方の著者の主張をあわせた考えとして成り立つかどうか、正誤の組合せとして適切なものを、下記の①～④より1つ選びなさい。

X :

Y :

- ① X = 正 Y = 正 ② X = 正 Y = 誤
③ X = 誤 Y = 正 ④ X = 誤 Y = 誤

- (8) [文章Ⅰ]に関連する内閣府の最近の調査として「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(人々のつながりに関する基礎調査)」(令和5年)がある。この調査の中で、人々の経済的な暮らし向きの判断ごとに、孤独感の程度を集計した結果が表1である。表1の集計結果の読み取りとして、以下の①～⑤の文章の各々について、正しい場合は○を選び、間違っていれば×を選びなさい。

表1 経済的な暮らし向きごとにみた孤独感の程度

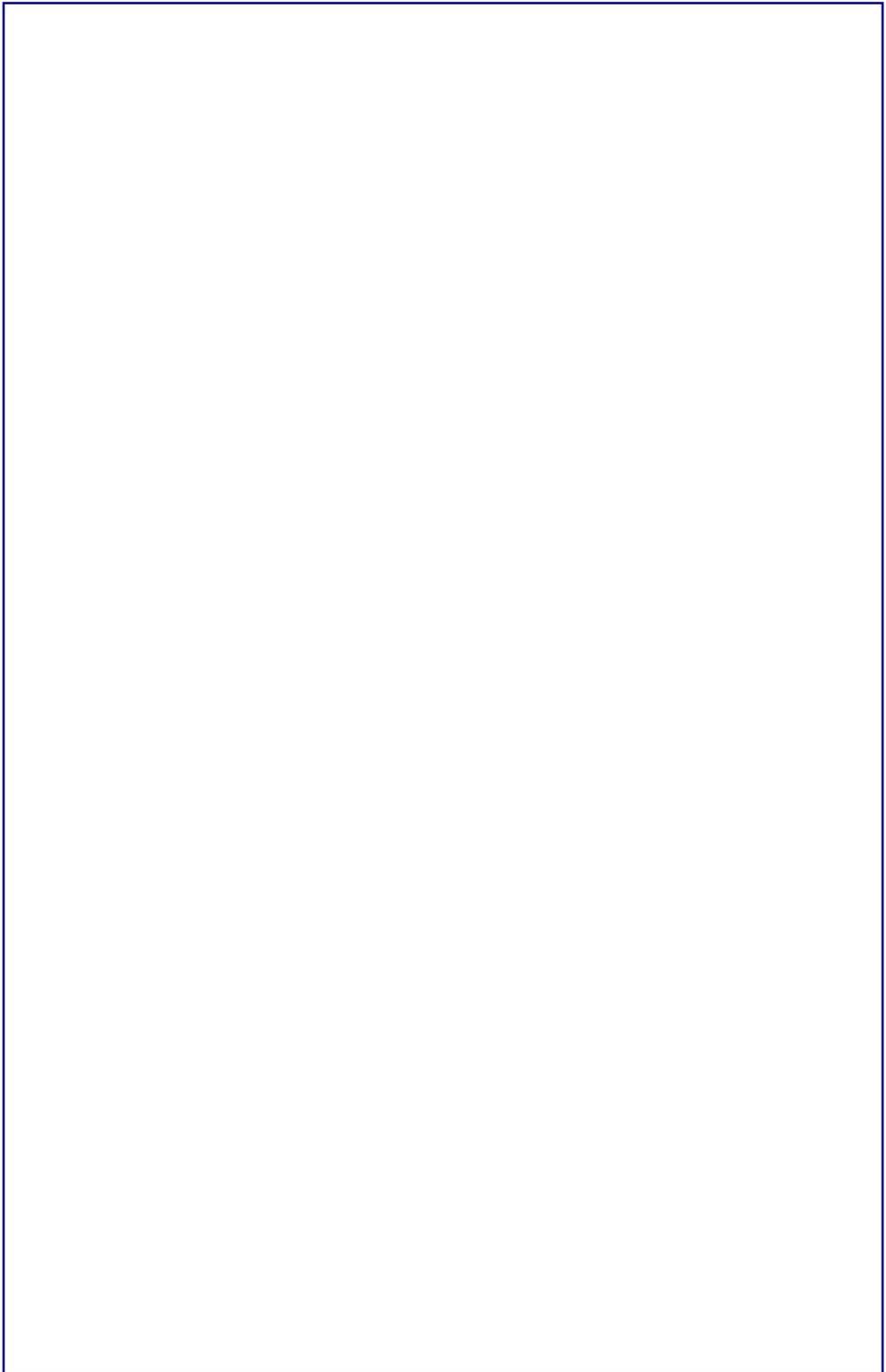
〔経済的な暮らし向き〕	〔孤独感の程度〕							(%)
	実数 (人)	しばしば ある・常 にある	時々ある	たまに ある	ほとんど ない	決して ない	無回答	合計
大変ゆとり がある	211	4.7	9.0	13.3	41.2	31.3	0.5	100.0
ややゆとり がある	1,153	2.6	10.3	18.0	45.2	22.8	1.0	100.0
普通	4,958	2.4	11.6	18.6	46.0	20.1	1.3	100.0
やや苦しい	3,248	5.6	17.5	22.0	39.4	14.1	1.4	100.0
大変苦しい	1,499	12.7	24.1	20.5	27.6	12.9	2.2	100.0

(出典：内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(人々のつながりに関する基礎調査)」(令和5年)による。一部改変)

- ① 経済的な暮らし向きが「大変苦しい」という人たちの中で、程度を問わず、孤独感があるという人の比率は3割後半である。
- ② 孤独感が「決してない」という人の比率は、経済的な暮らし向きの程度と強く関係しており、暮らし向きの程度にゆとりがあると答える人たちほど、その比率が高い。
- ③ 孤独感が「しばしばある・常にある」という人の比率は、経済的な暮らし向きが「大変苦しい」という人たちにおいて、それが「やや苦しい」という人たちの比率の2倍をこえている。
- ④ 経済的な暮らし向きの程度にかかわらず、孤独感が「ほとんどない」という回答が孤独感の選択肢の中でもっとも多く選ばれている。
- ⑤ 今回の調査において、経済的な暮らし向きが「普通」と答える人たちの中でも、孤独感が「しばしばある・常にある」と答えた回答者数は150人をこえている。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。







設 問

- (1) 空欄 にあてはまる用語を下記の①～⑥の中から1つ選びなさい。
- | | |
|------------------|---------------|
| ① 世界人権宣言 | ② ポツダム宣言 |
| ③ 国際連合教育科学文化機関憲章 | ④ 児童の権利に関する条約 |
| ⑤ サンフランシスコ平和条約 | ⑥ 文化多様性条約 |

- (2) 論旨をふまえ、空欄 および空欄 にあてはまる用語として適切なものを下記の①～⑥よりそれぞれ1つずつ選びなさい。

- (3) 筆者が考える下線部1 とは何か。句読点とも45文字以内で答えなさい。

(4) 下線部2 を筆者の考えに基づいて別の表現で言い換える場合、下記の①～④の中から適切ではないと考えられるものを1つ選びなさい。

- ①
- ②
- ③
- ④

(5) 筆者の論旨にそって空欄 D の部分に
 に続く句を入れる場合、最もふさわしいものはどれか。下記の①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

(6) 筆者の論旨にしたがえば、空欄 E にはどのような用語が適切であるか。適切な用語を文中から抜き出して記しなさい。

(7) 筆者によれば、下線部3
 とあるが、 とは何か。句読点とも45文字以内で答えなさい。

【注(※)】

○コメニウス：Comenius, Jan Amos Komensky 1592-1670

【引用】

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会，196頁，2000年.

箕浦康子「『異文化間教育』研究という営為についての2,3の考察—パラダイムと文化概念をめぐって—」『異文化間教育』36, 89-104頁，2012年. (一部改変)

